



昨年度に引き続き3回目の秋田県ラウンドは、県内はもとより、岩手県・宮城県・栃木県からもご参加をいただき、総勢36名で開催することができました。開催にあたり各方面からのご協力をいただきまして、心より感謝いたします。開会行事にて、高橋修一調査官より、「昨今の体育に関する情勢」について、最新の話題をご提供いただきました。体育・保健体育を通して、どのような子どもたちを育成していくのかという視点が大切だということ。10年後の社会を生き抜く子どもたちにどのような力をつけるかが大切という視点に立って体育を考えるとというご講話をいただきました。

## 1 話題提供 「体力の向上について」「第34回秋田県学校体育研究大会秋田大会を終えて」「タブレットを活用した体づくり運動の授業」

今回は、国立教育政策研究所フェロー末永祐介先生より、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から体力向上に向けたポイントについてご紹介いただきました。体力を向上させるためには、運動好きの子どもたちを育成すること、幼児期の様々な運動体験が大切なことが調査等結果から明らかになっているということを紹介していただきました。今後の体力向上に向けた授業づくりに大変参考となる内容でした。

秋田市実行委員会より、小・中・高等学校のそれぞれの実践について話題提供がありました。

秋田市大会の取組について、秋田市立牛島小学校の高橋亨先生からは、研究主題をもとに、これまでの取組の紹介がありました。各研究チームを中心とした事前研修にも力を注ぎ、会員全員での研修となるよう努力してきた経過が報告されました。さらに研修を深めるための新たな視点等の課題も挙げられました。

小学校の取組として、秋田市立戸島小学校櫻井百合香先生より、第2学年における「多様な動きをつくる運動遊び」について紹介がありました。教師が提案した「にんじゃ」「OO名人」「じゃんけんゲーム」を行い、導入では、音楽を使用した体ほぐしの運動に取り組む様子が映像とともに紹介されました。楽しみながら運動に取り組んでいる様子が伺えました。秋田市立桜小学校渡邊聡子先生より、第4学年における「多様な動きをつくる運動」の実践について紹介がありました。輪を使用した運動を行い、チャレンジタイム1・2を設定して、運動に取り組ませる様子が映像とともに紹介されました。グラウンドを使用したこともあるということも紹介されました。中学校の取組として、秋田市立北手中学校の平野真先生より、市内の中学校2年男子の取組が紹介されました。体力を高める運動について、改訂の趣旨をふまえたバランスのよい運動の組み合わせの学習内容でした。ひとつの運動を追求することよりも多様な運動に触れさせ、組み合わせることが大切だということでした。ペアやグループで自主的に活動する様子が映像から伺えました。高等学校では、第3学年の取組として、体ほぐしの運動では、協働で運動を行う姿が見られました。体力を高める運動では、目的を持って課題に取り組んでおり、継続して運動に取り組むことができる内容が紹介されました。

県内の実践ということで、大仙市立大曲中学校からは、体づくりアプリケーションによりタブレットを活用した体づくり運動の授業実践の紹介がありました。生徒は、映像やタブレット画面に従って、授業を進めていくという興味深い内容でした。ICTの活用に関する授業の実践につながる取組でした。



## 2 グループ協議

話題提供を受けて、「体育学習における系統制」「指導と評価の一体化」「体力の向上に関する取組」「ICTの活用」について話し合われました。

「指導したことを評価する」って何？

## 3 まとめ ~佐藤 豊先生のご指導から~

佐藤豊先生からは、たいへん貴重なご指導をいただきました。

- ・地域で連携しながら、体育学習についての話し合いを設けるなど、広域型連携モデルによる周知システムが今後大切である。学生、教員、大学の先生、行政に関わる方がそれぞれ連携できるシステムにより、限られた中で情報伝達エラーが起らないようにしたい。
- ・指導したことを評価するとは、示された内容を具体的に指導して、評価することである。(右図参照) 指導したことを評価するといっても容易ではなく、右図のような包括的な視点での検討が必要ではないか。
- ・児童生徒の体力は、それほど低下している訳ではない。最も気になっていることは、高校卒業後の運動習慣や体力の状況である。生涯にわたって運動に取り組もうとする資質や能力を小・中・高等学校の体育学習において、育みたいものである。
- ・12年間の体育学習を終えた状態で、将来に目を向けた時に何が残っているかということ意識したいものである。技能指導に偏り過ぎることなく、態度、思考・判断、知識に示されている内容を重視することが将来につながる大切な要素と考えている。
- ・21世紀型学力を育むために体育学習の関わりについて検討してきた。何をどのように学ばか、何ができるようになるか(右図参照)ということを確認のとらえていきたいものである。

学習指導要領に示された内容を具体化して身につかせて、目標に照らして評価する



### 何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの  
学習評価の充実

何を学ばか	どのように学ばか
<b>育成すべき資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し</b> ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化 (小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実 ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、自立して生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善 等	<b>育成すべき資質・能力を育むための 課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(「アクティヴ・ラーニング」)</b> ◆ ある事柄を知っているのみならず、実社会や実生活の中で知識・技能を活用しながら、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、成果等を表現していくよう、学びの質や深さを重視。
<b>理念を実現する 環境作り</b>	◆ 各学校のカリキュラム・マネジメント支援 ◆ 新たな学習・指導方法や評価方法の更なる開発や普及を図るための支援